

宇都宮市立今泉小学校第4学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の県、市と本校の状況

分類	区分	本年度		
		本校	市	県
領域等	物質・エネルギー	74.4	73.1	71.8
	生命・地球	74.0	67.9	67.8
観点	科学的な思考・表現	69.1	66.5	65.0
	観察・実験の技能	73.4	69.7	68.4
	自然事象についての知識・理解	75.6	71.6	71.4

★指導の工夫と改善

○良好なもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の改善
物質・エネルギー	○平均正答率は74.4%で、県の平均正答率71.8%と比較すると2.6ポイント上回っているが、市の平均正答率は73.1%であり1.3ポイント上回っているにすぎない。設問でみていく「電気のとおりみち」では市の平均正答率より6.1ポイント、県の平均正答率より9.2ポイント高いことから、この学習内容の定着がみられる。 ●「光のせいしつ」に関する問いでは、市の平均正答率より4.1ポイント、県の平均正答率より3.8ポイント低い。虫眼鏡で光を集めたときの明るさや温度の違いの理解が不十分であったと考えられる。	・教科書で学習するだけでなく、実際に実験し、過程をよく考察し結果をまとめることで実験結果を定着させていきたい。また、視聴覚教材も有効に活用し内容の理解を深めたい。 ・「光のせいしつ」で問われた「虫眼鏡で光をあつめたときに明るさや温度の違い」についての理解が不十分であったので、虫眼鏡の使い方とともに復習するようにする。
生命・地球	○平均正答率は74.0%で、市の平均正答率67.9%、県の平均正答率67.8%と比べると6ポイントほど上回っている。他の設問をみても市や県の正答率より5ポイント以上、上回っているものが多い。 ●「昆虫によって変態の仕方が違うことがわかる」については平均正答率が55.6%と市の平均正答率60.2%、県の平均正答率62.5%と比較すると低くなっている。 ●「虫めがねの正しい使い方」「方位磁針の使い方」などは市や県の正答率と比較すると大きな差はないが、「虫めがねの使い方」では平均正答率が39.4%、「方位磁針の使い方」では44.4%と半数以上が理解していない。	・学校だけではなく、身近な生き物や自然のついて興味・関心をもつような言葉かけや機会を増やすようにする。また、観察で使用する用具については、使う前に使い方をもう一度確認するなど復習を行っていく。